



3年ぶりに開催します！

第26回「東海I~MOのまつり」

東海村の特産品である「サツマイモ」をテーマにした県内唯一のイモ尽くしのお祭りを、3年ぶりに開催します。「サツマイモ」にちなんだ楽しい催しを用意していますので、ご家族皆さんで、ぜひお越しください。



期日▼11月23日(水・祝)(雨天決行、荒天中止)

時間▼午前9時30分～午後3時(予定)

場所▼東海文化センター周辺

その他▼▽マスクの着用や、手洗い・手指消毒の徹底、体調が優れない場合は来場を控えるなど、感染症対策へのご協力をお願いします。▽新型

コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、中止・延期となる場合があります。

問い合わせ▼東海I~MOのまつり運営協議会(東海村観光協会内 ☎287-0855)

詳細はこちら▶



「東海村の自然誌」(平成19年発行)では、江戸時代ごろに「阿漕ヶ浦が汽水湖だった」、海とつながっていたかとする説は科学的にも立証できない」と報告しています。やはり、古老が伝える

「江戸時代またはそれ以前に阿漕ヶ浦が海とつながっていた」という話は地域に伝わっていたようで、郷土学習資料の中にも上川が書き込まれた図を見ることができ(図1参照)。

かつて東海村に「上の川」と呼ばれる幻の川が流れていたと聞いたことがある方はいますか。その伝承については、須藤佐武さん(前東海村文化財保護審議会会長)が「広報とうかい」(平成24年2月25日号)に掲載の「ふるさと歴史」で、「村の古老から、かつて「上の川」と呼ばれる川があったと聞いたことがあります。その流れは百塚原・下の内を経て阿漕ヶ浦に入り、そこから村松晴嵐の碑の前を通り、海へ向かっていったそうです」と紹介しています。

ふるさと歴史 〜歴史を再発見〜 古老の伝承「上の川」は本当にあるのか

歴史と未来の交流館学芸員

林 恵子



【図2 確認された流路跡(星印)】(点線は郷土学習資料に描かれる上の川のルート)



【図1 真崎浦・細浦西野開墾地域図】(昭和59年改訂「のびゆく東海」掲載図に筆者加筆)

この流路跡が、果たして上の川なのかは、分かりません。しかし、古老の言い伝えや地域の伝承の中には数パーセントの真実が隠されているような気がしてなりません。上の川について聞いたことがある方は、ぜひ歴史と未来の交流館へ情報をお寄せください。

昔はここにも川が流れていたのだらうかと考えましたが、その流路は海へ向かって流れていたのではなく、海岸に沿うように流れており違和感を覚えました。その時、ふと上の川の話思い出し、試みにこの流路跡を地図上にのせてみると、おおよその位置と流路の方向が古老の伝承と一致したのです(図2参照)。

幻の川「上の川」は存在しないのでしょうか。さて、最近私は、発掘調査の図面の片隅に「流路跡」という記載を見つけました。遺跡名は「村松白根遺跡」。今から15年ほど前に村松海岸での工事中に見つかった、室町時代から江戸時代初期の製塩遺跡です。確認された流路跡は最大上幅が7.4メートル、断面は浅いU字状をしており、底には丸みを帯びた自然礫が堆積していました。昔はここにも川が流れていたのだらうかと考えましたが、その流路は海へ向かって流れていたのではなく、海岸に沿うように流れており違和感を覚えました。その時、ふと上の川の話思い出し、試みにこの流路跡を地図上にのせてみると、おおよその位置と流路の方向が古老の伝承と一致したのです(図2参照)。